

第1回

1

志村史夫「文系？ 理系？ 人生を豊かにするヒント」より出題

IT革命により人類は多量の情報・知識を得ることが可能になりましたが、それに比例して、ものごとの道理を悟り、適切に処理する能力である智慧を低下させてしまった。智慧こそは世界を包み込むことさえできる想像力であり、人生を豊かにするために本当に必要なものであるということ、さらには「考える」とは経験と知識をふまえて頭を働かせることであり、そのためには何事にもとらわれず素直に観察する感性が必要である、というのがこの文章の趣旨といえます。

問一

設問には「情報収集に関して、何がどのように変わりましたか」とあるので、この要求にこたえる必要があります。ここでは10行目に「情報収集の」という表現があるので、その次のフレーズをそのまま使って答えることができます。

問二

「映像メディア」と「文字メディア」の違いを説明する問題です。結局、それぞれの長所と短所を比較することになります。設問の指示に従って「映像メディア」を主語にしてまとめると、その利点として、24行目以下の「具体的な像を音声つきで与えてくれ」ること、「知識の増量が容易で迅速」なことを、欠点としては27行目以下の「脳が活性化しない」ことや「智慧が発達しない」ことなどを指摘する必要があります。

問三

「筆者が考える智慧の意味」を説明することが求められています。本文36行目に「現在のようにITが発達した社会では知識の多寡については・・・パソコンやインターネットに絶対に叶わないのです」とあり、39行目に「人間の価値は智慧の多寡にかかっている」とあります。その上で56行目の「智慧は人生を楽しく、豊かにしてくれるのです」とあるのをふまえて、解答を作成します。

問四

空欄補充問題。「教科書を暗記しただけでは決して身につかない」「筋道を立て考えることこそ智慧の真髄」とあるので、暗記とは正反対の「智慧」について述べている部分と考えることができます。

直前の「このような」の指示内容から45行目の傍線(3)の文にある「想像力」「智慧」が解答の決め手になります。

問五

「堂々巡り」という表現の意味を問う問題です。かりにこの言葉を知らなくても文脈からその意味がわかるように作問しています。

問六

接続詞の問題です。Aは智慧の重要性を説く筆者が、かつては智慧の多寡も重要だったことがあることを確認しておくという文章ですので「もちろん」が入ります。

Bは状況が過去とは変わり、情報の多寡では人間はコンピュータなどに勝てなくなった時代になったということで、価値観が変化した相反する内容をつなぐ「しかし」が入りません。

Cは智慧の意味をさらに別の言葉に置き換え説明を重ねていく部分であり「つまり」が入ります。

Dは話題の転換の部分であり「ところで」が入ります。

問七

漢字の書き取り。正しい画数で書いていることを示すためには、丁寧な楷書で書くことが必要です。

問八

本文の内容に合うものを選ぶ問題です。

すべての選択肢の前半部分は一致しており、後半部分の内容を検討することになります。

Aは「まずは経験することが必要」とあるのが本文に合いません。66行目以下に新明解国語辞典の「考える」の語義説明を引用した部分に、「考える」基本は「経験」と「知識」であると述べられていますが、ここでいう経験とは76行目以下にあるように、物を親身に感じて生きることであり、「どんな形でもいい」わけではありません。

Iは83行目以下の、ある「現象」を重要と思い、それに対して知的欲求を持続することが必要と述べていることに合致していますのでこれが正解になります。

ウは77行目以降の知的欲求や強い関心を持つことが、「考える」ことの本動力であるという記述に反しています。

Eは90行目の記述から、「常識・世間体」と「率直な観察」は並列的な関係ではないので、その点が間違いといえます。素直な観察を通して疑問を感じる力こそ、考えることのエネルギーの源だと述べられています。

2

朽木祥「風の靴」より出題

自我の芽生えた少年たちが、航海を通して一人で力強く生きてゆくことの大切さを知るというストーリーです。

途中、英語や詩も出てきますが、英語力は一切不要です。

問一

主人公の心情を問う問題です。海生が寝付けなかったのは、出航前の気持ちの高まりの中で、過去の思い出が回想される2行目から18行目までの記述から考えます。

アが正解です。17行目の「いちばんのなかよしたちと思いきり、笑って過ごした時間」といった記述が相当します。

イは「しみじみと悲しんでいる」という表現が、ウは船の外の景色が描かれていないことが、エは「焦っている」という表現が合致しません。

問二

慣用的な表現「風をはらむ」を答えます。

問三

「おじいちゃん」の「一人で読め」という遺言の意味を考えます。

手紙の内容から考えることとなります。手紙の中の詩のメッセージとして118行目の、

「我々は、もっと知らなければ／自分が何であり何でないかを」とあることをまずふまえます。また、138行目にあるお兄ちゃんと比べられすねた海生を連れ出して「おじいちゃん」が言った「おまえは、おまえ以外の人には、なれないんだ」という表現も参考にします。これらは、かけがえのない自分という存在を意識せよというメッセージといえます。

アは手紙は一人で読むものという一般論にとどまっています。

イは「おじいちゃん」だけが海生を理解しているということを述べようとしているわけではないので選べません。

ウは海生の自立をうながすもので、これが正解といえます。

エは「大人になると」に当たる内容は文中にはありません。また「一人で生きていかねばならない」に当たる内容もないことから選べません。

問四

「おじいちゃんが怖い顔になった」のは、怒りではなく、海生に真剣にメッセージを伝えるための表情です。怖い顔になったきっかけは135行目の海生の「みんな、ぼくのこともなんかだめだと思ってるんだ——どうせ、おにいちゃんみたいにはできないよ」という発言にあります。つまり、自己否定にともなう「すね」の気持ちに対して、厳しい注意を与

えるための表情といえます。

よって解答のポイントとして、「兄より劣っている周囲の評価」と「自分に対する劣等感、自己否定」との二点をおさえることが求められます。

問五

「おじいちゃん」からの手紙を読み終えた後の海生の決意を問う問題です。

海生の気持ちの変化は 143 行目の「そうなんだ。ぼくらは風ではない・・・」以下に表現されています。「そして、自分の進む針路を決めるんだ。ほんとうに行きたい方向に向かって」とあるのが決意の中身といえます。ここにある「風」とは自分の周囲の世界のことも考えられます。よって、「周囲を気にすること、まどわされることを止める」と「自分で自分の針路を決める」という 2 点をまとめることになります。

問六

慣用句の問題、今回は「気」を使った言葉でした。

問七

副詞を補充する問題。

Aは「だろう」と呼応して推量・意志を強調する「きっと」、

Bは海生にとっては、舵輪のサイズが少しだけ大きい、それは海生が大人になっていないから、という文脈なので「まだ」、

Cは「風の靴」という比喩を言い起こすための「まるで」、

Dは「頼りになるスキッパー」「信頼されている」とあるので、「裏切られることなどはない」を強調する「むろん」が入ります。

問八

内容に合うものを選ぶ問題。

アは、「おじいちゃん」の手紙のメッセージは、自己の尊重であり、「友情の大切さ」ではないので不可です。

イは、「かけがえのない自分の存在」の発見こそが、この話のテーマといえます。これが正解です。

ウは「もう一度自分を受け入れることができ」が曖昧です。

エは「一度は失った自分らしさ」がウと同様に曖昧であり、このことは本文には書かれていません。海生は劣等感を抱いてはいたが、自己を喪失したことは述べられていません。